国内線4都市、国際線13都市に就航中。開港6周年を迎え、ますます便利になる富士山静岡空港をぜひご利用ください。 問合せ：県空港利用促進課 054-221-3355

ふじのくにの地域外交 台湾編

民間交流支援で高密度な友好関係を構築する。

将来に向け戦略的な交流を展開することで、
国際的な存在感を高めていく静岡県の地域外交。
古くから交易が続き、文化における共通点も多い台湾との交流について紹介する。

多分野への民間交流支援

日本の西端、与那国島からわずか約100km。日本と台湾は古くから海運を通じて民間交流が盛んに行われてきた間柄だ。静岡県との関係は、平成21年の富士山静岡空港の開港前後から活発になり、平成24年の静岡・台北便就航以降は、民間交流がより活性化している。こうした動きをとらえて静岡県は平成25年に「ふじのくに静岡県台湾事務所」を開設し、本県の知名度向上と民間主体の交流を軸に、静岡・台北便の利用拡大を図り、交流人口の拡大を目指している。

本県と台湾の地域外交の核を成すのは、平成25年から始まった民間外交支援事業だ。これは地域との交流を更に進めるため、民間主体の相互交流のきっかけづくりを支援するもので、支援分野は文化、教育、スポーツ、自然保護など多岐にわたる。

玉山と台湾マラソンの波及力

民間主体の交流を後方支援する静岡県にとって、大きな節目になったのは、日本富士山協会と中華民国山岳協会が平成26年に締結した「富士山・玉山友好山提携」だ。

玉山は標高3952mを誇る台湾の最高峰。日本人にとっての富士山のように、台湾の人々が尊崇する霊峰であるため、日台友好における同提携の意義はとても深い。また、両協会が交わした協定には「両山地域の自然、文化、歴史、産業等の分野における交流と協力を積極的に推進する」とあるため、多分野での民間交流支援を目指す本県にとっても大きな意味合いを持つ。

静岡マラソンと台北マラソンの友好交流も多分野への波及効果が期待されている提携だ。平成26年に交わされた覚書には「大会運営経験の共有と交換」「入賞選手の相互招待」「地域住民や参加ランナーの相互理解促進」などが記されているが、双方の運営には地元の企業や財界が絡むとともに、行政やマスコミも深く関わっているため、スポーツやイベント関連だけでなく、あらゆる分野の交流を加速させる可能性がある。

スポーツ交流で親交を深める

台湾に対する平成27年度の重点施策は「スポーツ交流の強化」だ。中でもサイクリング交流事業に寄せる期待は大きい。

台湾はサイクリング人口が多く、静岡県はサイクリングイベントの実施件数が全国トップクラスだ。その背景を踏まえて静岡県は、今年11月に行われる「台湾サイクリングフェスティバル」に県や市町をはじめ、県内イベント関係者、ローカルサイクリストなどを訪問団として派遣し、イベントに参加するとともに相互の地域の魅力を情報交換する。この訪問が契機となり、相互に愛好家が行き来するようになれば、各地でより親密な交流が可能になるのは間違いない。

静岡と台湾の次代を担う青少年交流も盛んに行われている。平成26年には高校野球選抜チームや高校生バスケットボール女子チームなどを台湾へ派遣し、交流親善試合を実施。今年は8月に高校生によるロボット交流を行う予定だ。

自治体間連携による広域交流

民間主体の交流が多様化する一方、自治体間交流も進んでいる。静岡県は台湾4市2県と「防災に関する相互応援協定」を締結し、有事の際の協力関係づくりを進めている。また、この5月には伊豆半島12市町の首長がそろって台湾を訪れ、「台北国際観光博覧会」に参加するとともに、自治体への表敬訪問を行い、伊豆の魅力を台湾各地でアピールした。静岡県ではこうした市町の動きとも連動しながら、点から線、線から面へ交流の密度を高めていく構えだ。

距離的に近く、文化面でも共通項が多いと言われる日本と台湾。その密接な交流をさらに深める上で、静岡県の動向に全国から注目が集まっている。

静岡マラソンと台北マラソンの友好交流。

平成26年12月、静岡県の高校野球選抜チームが台湾を訪問し、交流親善試合を行った。

伊豆半島12市町の首長が参加した「台北国際観光博覧会」。

台湾の最高峰・玉山。人々が霊峰として敬う気持ちは、日本人にとっての富士山と共通する。

◎台湾 • 人口：22,370,000人（2013年） • 面積：36,000km²